

【研究4】 「通いの場等の取り組みを評価する枠組み」の適用可能性の検証

研究分担者	清野 諭	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 研究員
研究分担者	植田 拓也	東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター 副センター長
研究協力者	森 裕樹	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 研究員
研究分担者	野藤 悠	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 研究員
研究協力者	根本 裕太	東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター 研究員

研究要旨

本分担研究では、「通いの場等の取り組みを評価する枠組み」の適用可能性を検討するため、ベースライン調査を実施した東京都八王子市および豊島区を含む29自治体の介護予防事業担当者から、本枠組みについて意見聴取し、本枠組みを改良することを目的とした。

29自治体の介護予防事業担当者から、本枠組みに対する意見を自由記述形式で調査した。共起ネットワーク分析によって抽出された単語の共起関係を明らかにし、その内容をカテゴリー化して整理した。この結果をもとに枠組み案を修正し、最終的な枠組みを完成させた。本枠組みはプロセスチェックシートと評価指標を含み、PDCAサイクルに沿った通いの場の取り組みの推進と評価に活用可能なものと考えられる。

A. 研究目的

本分担研究では、研究代表者らが令和2年度老人保健健康増進等事業で提案した「通いの場等の取り組みを評価する枠組み（以下、本枠組み）」の適用可能性を検証することを目的としている。

令和3年度は、ベースライン調査を実施した東京都八王子市および豊島区を含む29の自治体担当者から、本枠組みの適用可能性に関する意見を聴取し、本枠組みを修正した。

B. 研究方法

八王子市および豊島区を含む29自治体の介護予防事業担当者から、本枠組みに対する意見を自由記述形式で調査した。得られた意見に対して、KH Coder Ver.3を用いて内容を精査し、枠組み案の修正や改良につながる知見を得ることを試みた。KH Coderとは、テキストデータを計量的に分析するためのプログラムソフトウェアであり、文章の形態素解析によって抽出された単語が、分析対象内でどのように使用されてい

るかという文脈を探ることができる。本研究では、共起ネットワーク分析によって抽出された単語の共起関係を明らかにし、その内容をカテゴリー化して整理した。この結果をもとに枠組み案を修正し、最終的な枠組みを完成させた。

（倫理面への配慮）

本研究は、東京都健康長寿医療センター研究所倫理審査委員会の承認を受けて実施された。

C. 研究結果と考察

表1に、本枠組みのプロセスチェックシートに対する介護予防事業担当者の意見の分析結果とそれに基づく文言修正の概要を示した。また、文言修正された本枠組みのプロセスチェックシート（最終版）を表2に示した。

プロセスチェックシート（表2）は、通いの場等の取り組みを推進するにあたり、自治体担当者がPDCAの各局面で留意することが望ましいと考えられる10のコア項目と、それに付随する

小項目から構成されている。これらは、自治体担当者が通いの場の取り組みをステップ・バイ・ステップ方式で推進できるよう配置されており、これを多く満たすほどPDCAサイクルに沿った取り組みに近づくよう意図されている。本チェックシートを各局面で随時活用することで、PDCAのどの局面に課題があるかに加え、その改善度についても確認することができる。また、コア項目および小項目は、保険者機能強化推進交付金に係る評価指標とも整合するため、これらの項目を多く満たすことで自治体のインセンティブにもつながるものと考えられる。

本チェックシートでは、Plan（「理解」、「調査・計画」）の局面が特に重要な過程として位置づけられている。植田ら²⁾は、自治体担当者が通いの場づくりを推進する手順として、1) 既存の通いの場の総数の把握、2) 活動の主目的（生きがい・楽しみ：タイプⅠ、交流：タイプⅡ、心身機能の維持・向上：タイプⅢ）別にみた数の偏りの把握、3) 地域課題や住民ニーズの把握、4) 必要性の高い通いの場のタイプ（主目的）の明確化、5) 場づくりに必要な要素（運営主体、場所、活動内容、参加者層、頻度、展開・継続戦略）の決定、という流れを提案している。本チェックシートの小項目に留意することで、これらの手順を踏まえた戦略的な通いの場づくりにもつながると考えられる。

通いの場の効果評価の場面は、①通いの場参加者個々の評価（例えば、通いの場Aにおける参加者Bの評価）、②通いの場グループ個々の評価（例えば、通いの場Aの参加者全体の評価）、③当該自治体内の通いの場全体の評価（すべての通いの場の参加者全体の評価）、④当該自治体内の高齢者全体（通いの場の参加有無にかかわらず対象全員）の評価、の4つに大別できる。本枠組みは、自治体担当者が事業として俯瞰的に評価する場面（③および④）を想定して作成されている。①や②にも活用可能ではあるが、必ずしも適合しないコア項目や小項目がある点に留意が必要である。

D. 結論

本研究では、自治体担当者への意見聴取結果をもとに、通いの場等の取り組みを評価する枠組みを改良することができた。本枠組みはプロセスチェックシートと評価指標を含み、PDCAサイクルに沿った通いの場の取り組みの推進と評価に活用可能なものと考えられる。本枠組みによって、今後、PDCAサイクルに沿った通いの場の取り組みや効果評価がより一層進むことを期待する。

E. 引用文献

- 1) 厚生労働省. 2020年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金. 2020.

https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/shikoku/c/hiiki_houkatsu/000148379.pdf.

- 2) 植田拓也, 倉岡正高, 清野 諭, 小林 江里香, 服部真治, 澤岡詩野, 野藤 悠, 本川佳子, 野中久美子, 村山洋史, 藤原佳典. 介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案. 日本公衆衛生雑誌印刷中.

F. 研究発表

1. 論文発表
 - 1) 植田拓也, 倉岡正高, 清野諭, 他. 介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案. 日本公衆衛生雑誌. (印刷中)
2. 学会発表
 - 1) 植田拓也. 多様な通いの場におけるPDCAサイクルに沿った評価の視点. シンポジウム14: 住民主体の多様な通いの場・居場所の展開: 住民主体の通いの場の概念と多様な通いの場の類型. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021.12.21-23.
 - 2) 清野諭. 多様な通いの場におけるPDCAサイクルに沿った評価の視点. シンポジウム14: 住民主体の多様な通いの場・居場所の展開: その概念整理とPDCAサイクルに沿った評価. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12.21-23.

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表1. 自治体の介護予防事業担当者による意見の分析結果

大カテゴリー	小カテゴリー	具体的な意見例	修正の概要	
介護予防・フレイル予防の理解	「理解」と「説明」の違い	「説明できるということは理解しているということを含んでいる」	本チェックシートの説明文に、「担当課（通いの場事業に関わる職員）としての現状」を確認いただくよう明記した。 「理解」局面の主旨と「体制・連携」局面での関係者や住民への説明の必要性を鑑み、啓発の実施状況ではなく現状の形式とした。	
		「「理解している」「説明できる」は、「通いの場」に係る所管課である介護予防事業の所管課以外の関係所管すべての職員を想定しているものなのか」		
		「行政が介護予防やフレイルについて理解しているのは当然のことで、それを説明するのではなく、啓発ができていないか、もしくは啓発できるのかが重要だ」		
	効果指標に対する考え方	「介護認定状況などの把握は、本人の申告なのか、介護保険情報から得るのか」 「「ニーズ調査などによる評価項目」（主観的情報）、「介護保険情報等による評価項目」（客観的情報）と解釈して良いか」		「評価」局面に、「ニーズ調査等による主観的項目」と「介護保険情報等による評価項目」が区別できるよう明記した。
通いの場の把握と評価	把握することの困難さ	「地域にある通いの場のすべてを把握していない。また、把握している通いの場すべての参加者の状況を把握していない」	参考資料（注釈*3）として、通いの場の捉え方と把握の考え方に関する資料を掲載した。 課題に関する例（注釈*4）を掲載した。	
		「「地域の強みと課題」「把握している」が両方とも抽象的であり、判断に迷う。頻度、方法が明記されている方が判断しやすい」		
	評価の範囲	「特に「開催頻度」により評価の対象を限定しているように思う」	優先的に取り組むものを「重点課題」として記載した。	
		「優先順位というよりも優先的に取り組むものをすみ分けできているかが重要である」		
	プロセスチェックシートの活用法	プロセスチェックシートの活用法	「評価項目が細かく書かれていて、事業を推進するうえでの指標としてわかりやすい」	今後、本チェックシートを活用した事例について手引きを作成する予定。
			「本シートを実務の中でどのように取り入れてくるとより効果的・効率的に展開できるのか、評価時期（予算時、年度末等）、体制（メンバー）、計画との連動の仕方等について、詳しく知りたい」	
「アウトカム指標については、通いの場への参加群と非参加群との認定率の違いなど通いの場の効果に着目した評価をすることも必要ではないか」				
行政としての関わり方	個人を特定することの困難さ	「住民主体で運営を行っている通いの場において、個人情報提供や評価を行うことに対する抵抗感がある運営団体が想定されるため、個人を特定した評価は困難である」	本チェックシート内は現状のままとし、考察でこの点について言及した。	
		「通いの場の詳細（コア項目⑧の週1回以上の通いの場の延べ人数・累計人数等）を調査するのに限度がある場合の対応方法（抜粋調査など）があれば指標をいただけたら有難い」		
	活動主体への配慮の必要性	「介護予防を主目的としている活動は少ないと思われ、通いの場の主催者や参加者にとって介護予防の視点で管理されることが活動の負担になる恐れがある」	参考資料（注釈*3）として、主目的別の通いの場の類型の考え方に関する資料を掲載した。	
		「地域によっては会場の確保が難しく、頻度を調整して開催している団体も多くある。住民へ情報を提供するにあたり、類型別の情報を把握・評価することで、「通いの場」の全体像の把握等に、より有効に活用できる」		
	行政が管理することの矛盾・葛藤	行政が管理することの矛盾・葛藤	「通いの場が住民の主体的な活動であることを考えると、行政で管理しなければならない指標には矛盾を感じる」	通いの場等の取り組みを行政事業として実施する上では、ある程度の目標設定は必要と考えられる。よって現状のままとした。
			「通いの場が住民の主体的な活動である点を考えると、行政が目標を設定したり評価したり成果指標を設定したりする対象とはならないのではないか」	

		<input type="checkbox"/> 支援者・ボランティアのスキルアップ <input type="checkbox"/> 住民の参加を促す取り組み（他事業・団体との連携 等） <input type="checkbox"/> 広報活動 <input type="checkbox"/> 通いの場の立ち上げ支援 <input type="checkbox"/> 通いの場の継続支援（個別相談、専門職の定期的な関与、通いの場の機能強化支援等）	<input type="checkbox"/> 総合事業サービス（サービスC等）との連携 <input type="checkbox"/> 生活支援体制整備事業との連携 <input type="checkbox"/> 介護予防と保健事業の一体的実施（通いの場での健康チェックや栄養指導・口腔ケア 等） <input type="checkbox"/> その他（ ）	
評価	⑧通いの場の実施状況と効果を適切な指標で評価している	把握・評価しているすべての項目に✓		
		●直接の成果（アウトプット）指標	●効果（アウトカム）指標	
		<input type="checkbox"/> 通いの場の総数	・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等による主観的項目	
		<input type="checkbox"/> 類型ごとの通いの場の数 ^{※7}	<input type="checkbox"/> 基本チェックリスト（全25項目または抑うつ項目を除く20項目）	
		<input type="checkbox"/> 通いの場の年間実施回数	<input type="checkbox"/> 短期・中期モニタリング指標 ^{※8}	
		<input type="checkbox"/> 通いの場の延べ参加者数	<input type="checkbox"/> 幸福感	
		<input type="checkbox"/> 通いの場の実参加者数	・介護保険情報等による評価項目	
		<input type="checkbox"/> 通いの場の延べ参加率	<input type="checkbox"/> 新規要支援・要介護認定状況	
		<input type="checkbox"/> 通いの場の実参加率	<input type="checkbox"/> 「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上 ^{※9} の割合	
		<input type="checkbox"/> 週1回以上の通いの場の数	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
		<input type="checkbox"/> 週1回以上の通いの場の年間実施回数		
		<input type="checkbox"/> 週1回以上の通いの場の延べ参加者数		
		<input type="checkbox"/> 週1回以上の通いの場の実参加者数		
		<input type="checkbox"/> 週1回以上の通いの場の延べ参加率		
		<input type="checkbox"/> 週1回以上の通いの場の実参加率		
		⑨通いの場の効果評価ができるよう参加者情報・各評価項目をデータベース化している	<input type="checkbox"/> 通いの場参加者リストを作成または入手している	
			<input type="checkbox"/> 通いの場参加者リストや参加状況を電子化（データ化）している	
<input type="checkbox"/> ニーズ調査等のアンケート調査結果をデータ化している				
<input type="checkbox"/> 個人を識別可能な追跡調査をしている				
<input type="checkbox"/> 通いの場参加者リストや参加状況とアンケート調査データを結合できる				
<input type="checkbox"/> 通いの場参加者リストや参加状況と介護保険情報等を結合できる				
プロセス面の調整	⑩評価結果や現場からの意見をもとに、課題解決に向けた計画、体制、実施内容、目標値を再検討している	当てはまる項目すべてに✓		
		<input type="checkbox"/> 計画を再検討している（コア項目①～⑤の再確認）		
		<input type="checkbox"/> 体制を再検討している（コア項目⑥の再確認）		
		<input type="checkbox"/> 実施内容を再検討している（コア項目⑦の再確認）		
		<input type="checkbox"/> 目標値を再検討している（コア項目④の再確認）		